

1日の生活

時刻と時間

時刻は、時の流れの中の各瞬間、つまり、1点を示し、時間は、時刻のある点からある点までのへだたり、つまり、時の経過の長さを示すものです。したがって、時間は、加法や乗法など計算の対象になりますが、時刻については、加法や乗法などを考えることができません。

時刻は、児童の日常生活と関連させ、時計の読みを通してとらえさせることができます。



しかし、時間という量は、長さやかさなどとちがって、見かけではとらえにくく、基準となる単位を設けて直接測るということもむずかしいものです。

指導にあたっては、日常生活の中での行動や経験と対応させて、具体的な場で1点を示す時刻と、へだたりを示す時間とのちがいをつかませ、次第に時間の概念を育てていることが大切です。例えば、起点となる時刻を模型の時計で正しく示させ、終点となる時刻までゆっくり長針を動かしながら、視覚的に時間をとらえさせるようにしましょう。

1

上の絵を見て、つぎの時刻や時間をいいましょう。

- Ⓐ 家を出る 時刻と 学校につく 時刻
- Ⓑ 家を出てから 学校につくまでの時間

1時間が60分だということについては、時間についても十進数の原理を持ち込み、1時間を10分や100分と考えてしまう児童もいます。そのような児童には、実際に模型の時計を操作させ、1時間の間に長針が60目盛りすることを実感させましょう。

なお、時刻と時間については、3年で秒を取り扱い、時間の概念についての理解を深めるとともに、簡単な場合について、必要な時刻や時間を計算によって求めることができるように指導することになっています。

暗算

暗算の意義

数概念をもとにして、計算の過程を念頭で処理する計算の方法を暗算といいます。2年では、(2位数)±(1位数)、(2位数)±(何十)の暗算を学習します。

ここで取り扱う暗算は、今後学習する基本的な計算の基礎として、大切な学習内容です。かけ算九九や3つの数の筆算、かけ算の筆算を学習する際にも、途中の計算を暗算できなければ、学習の効率を欠くことになります。

暗算の指導にあたっては、次の点に留意が必要です。

- 正しい方法で計算させ、速さは要求しない。
- 順序よく段階的に進ませる。

暗算の方法はいろいろありますが、無理なく、だれでもできるようにするためには、以下のように進めます。

- 上の位から下の位へ処理する。
- 数をなるべく分解しないで計算する。

暗算は、日常生活で必要な身近な計算に役立ち、また、見積もりや概算力を高めるなど生きる力にも結びつくため、系統づけて指導することが大切です。

たし算の暗算の系統と位置づけ

- ① (十何) + (1位数)で、繰り上がって、20になる暗算
 - ② (2位数) + (1位数)で、繰り上がって、(何十)になる暗算
 - ③ (十何) + (1位数)で、繰り上がって、(二十何)になる暗算
 - ④ (2位数) + (1位数)で、繰り上がって、(何十何)になる暗算
 - ⑤ (2位数) + (何十)で、繰り上がりのない、(何十何)になる暗算
- ↓
- ⑥ (2位数) + (2位数)で、和が100をこえない暗算
 - ⑦ (2位数) + (2位数)で、(百何十何)になる暗算

3年

ひき算の暗算の系統と位置づけ

- ① 20 - (何)で、繰り下がって、(十何)になる暗算
 - ② (何十) - (何)で、繰り下がって(何十何)になる暗算
 - ③ (二十何) - (何)で、繰り下がって、(何十何)になる暗算
 - ④ (2位数) - (何)で、繰り下がって、(何十何)になる暗算
 - ⑤ (2位数) - (何十)で、繰り下がりのない、(何十何)になる暗算
- ↓
- ⑥ (2位数) - (2位数)の暗算
 - ⑦ 100 - (2位数)の暗算

3年